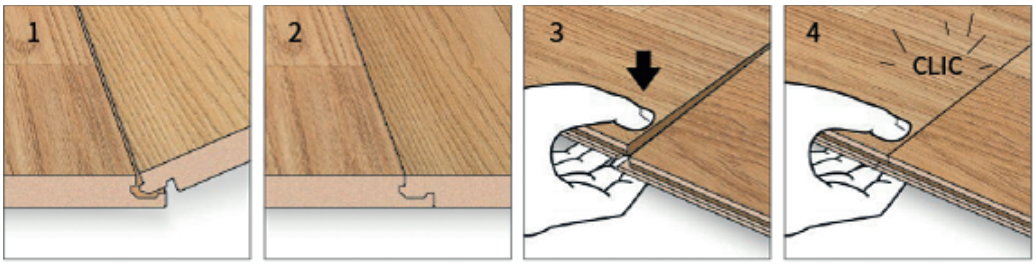
KRONOTEX
FLOORS FOR LIVING
クロノテックスジャパン株式会社

施工マニュアル

クロノテックス ラミネートフロア

『置敷施工』



施主様、設計士様、営業担当者様へ	2
「施工ミスの要因」	2
「置敷施工」のメリット・デメリット	2
「置敷施工」の詳細説明	3、4、5
Clic2ClicとExpress Clicの説明	裏表紙

『施工マニュアル』は施工者様向けだけではなく、施主様、設計士様、営業担当者向けに
接着剤を使用してはいけない「置敷施工」の正しい施工方法を説明する目的で作成しています。

はじめに

この度は、クロノテックスラミネートフロアをご検討いただき厚く御礼申し上げます。
フローリングなどの床仕上げ材は住宅用であってもスリ傷やキャスター傷に強いフロア材が必要です。
世界でフロア材を普通歩行用（住宅用）と重歩行用（非住宅用）に区別しているのは日本だけであると思われます。このため日本の住宅用フロア材は「傷に強い商品」でも世界レベルの耐摩耗性はありません。
ラミネートフロアには床仕上げ材として多くの必要な機能と高い性能があり、既にドイツ、イギリス、フランス、アメリカ合衆国などの欧米では住宅や非住宅の30%以上に使用されています。
ドイツ　クロノテックスはラミネートフロアの最大手企業で世界85カ国に輸出しています。クロノテックスラミネートフロアの品質は欧州規格EN13329で担保され傷や凹みそして薬品などにも強い商品です。
クロノテックスラミネートフロアの全ての商品は住宅でも非住宅でも安心してご使用いただけます。

ラミネートフロアは施工上の特長として、ラミネートフロアを床下地材に固定しない置敷施工が可能です。

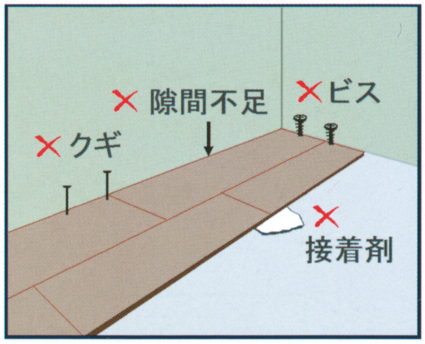
ラミネートフロア クリック施工の

『置敷施工』のメリット・デメリット

■クリック施工：（クリックの形状により施工方法が異なります）

- ラミネートフロアにはクリックと呼ばれる特殊形状のサネが付いています。
- クロノテックスのクリックは最新式第5世代のエクスプレスクリックを採用しています。以下の説明はエクスプレスクリック施工を前提とした説明です。他社ラミネートフロアの施工実績がおありの施工業者様はクリック形状が異なれば施工方法が異なることにご注意ください。
  他社ラミネートフローリング施工とは異なります。

■置敷施工



【概要説明】

①ラミネートフロアを床下地材に固定してはいけない床施工。
このため、フロア材を固定する接着剤や釘などの使用は厳禁。

②壁際、敷居、上がり框とフロア材の納まりはフロア材の伸びを考慮した隙間が必要。

【メリット】

①フロア材が床下地材に固定されていないため、フロア材を簡単に剥がすことができる。

②施工ルールを守る事により、接着剤や釘が不要であり、貼り換えおよび施工も容易となります。

③エクスプレスクリックはフロア材のジョイント解除でフロア材の損傷が少なく再利用率が高い。

【デメリット】

①フロア材を床下地材に固定できない、壁際に隙間を空けるなど施工ルールがある。

②連続する施工面積に限界がある。(一般的にはフロア材短辺方向 8m、長辺方向 12m が限界)

③本棚、商品棚などの重量物がフロア材と床下地材を固定することになり、
フロアが突き上がる原因となることがある。

置敷施工

■置敷施工の注意事項（重要な施工ルールです）

- **床下地材の確認**

  不陸は１メートル当り 3mm 以下として下さい。

- **接着剤、釘などでフロア材を床下地材に固定することはできない**

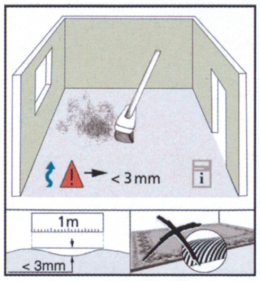
  部分的でもフロア材を床下地材に固定することはできません

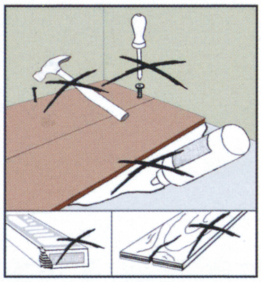
- **フロア周辺部には5mm以上の適度な隙間を設ける：**

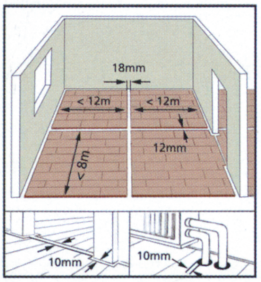
  壁際だけではなく、敷居、上がり框などでも適度な隙間確保は必要です。

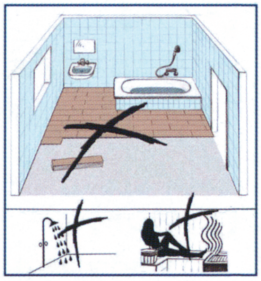
- **最大施工面積以下の施工とする：**

  最大施工面積（8m x 12m）を超える場合は、弊社にお問合せください。





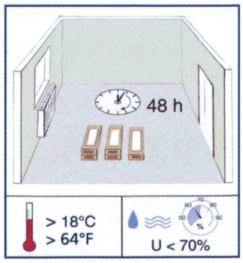




■エクスプレス クリックの手順

①フロア材を施工場所の環境に慣らす（養生する）

クロノテックス社の施工マニュアルでは、48時間の養生、気温18℃以上、湿度70%以下の環境下での施工を要求しています。（ご参考程度に記載いたしました）



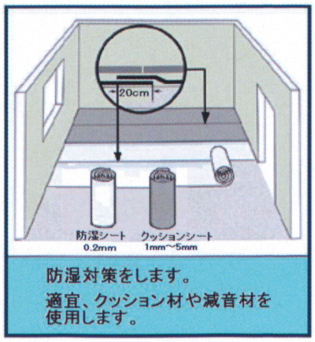
②防湿シート、クッションシートを敷く

- 防湿シートの役目

欧米の建築物の床はコンクリート仕上げが一般的なため、コンクリート（スラブ）からの湿気防止のため防湿シートを敷く。合板下地材の場合などは防湿シートは割愛できます。

- クッションシートの役目

一般的なラミネートフロアの厚みは8mm、コンクリート下地材の上に直接 8mm のラミネートフロアを施工し土足歩行すると「コツ、コツ」と歩行音がします。音を軽減する為や不陸の調整の為クッションシートを敷く。
合板下地材や厚み12mmのラミネートフロアではクッション材は割愛も可能です。



床下地材が合板下地の場合は防湿シートやクッションシートは不要。スラブ仕上げなどで防湿シートが必要か分からないときは防湿シートを敷く。
多機能下地シートTUPLEXを推奨。

③施工場所のサイズと壁の曲がりを測定する

● 施工前に切断するフロア材の幅と長さが適切か確認する

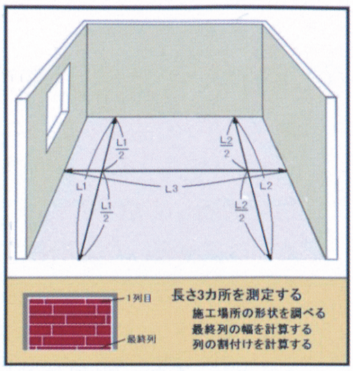
フロア施工の最終列の幅を計算で求め最終列が50mm以下となる場合は施工1列目の幅を切り落とし調整する（⑦参照）。

フロア1列目最後のフロア材の長さを計算で求め計算で求めたフロア材の長さが400mm以下の場合は1列目の張り始めの長さをカットし1列目最後のフロア材の長さを400mm以上に調整する。

● 施工 1 列目に隣接する壁の曲がりを確認する

壁には曲がりがあります。幅木は壁とフロアの隙間そして壁の曲がりを隠します。1 列目のフロアの幅を壁の曲がりに合わせてカットして下さい。（⑦参照）

1 列目フロア材は無条件で壁の曲がりに沿ったフロア材の幅カットをお勧めいたします。



施工基準線（L3)に並行に施工する。長手貼り始め貼りじまいの長さは400mm以上に割付して下さい。巾貼り始め貼りじまいの中は 50mm 以上にして下さい。

④スペーサーで正確な壁際の隙間を確保する

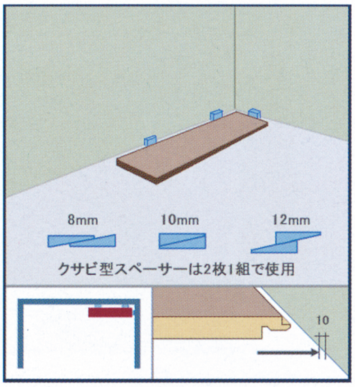
● スペーサーの役目

フロア施工終了まで、フロア1列目と壁の隙間を正確に確保するためにスペーサーを使用します。

● 最適なスペーサーはくさび形スペーサーです。

オススメのスペーサーはくさび形で2枚1組で使用します。スペーサーの重ね方により8mmから12mm まで0.5mm 単位で目的に合った隙間が確保できる優れものです。

壁際の隙間5mmを確保するときに、暑さ5mmの合板などをスペーサーとすることもできますが、壁の曲がりを考慮して御使用下さい。



隙間の目安はフロア1メートルで1mm、少なくとの10mm以上が正規ルール。

⑤フロア1列目の施工精度は重要

● フロア1列目の施工

フロア1列目の施工では前列がありませんので、フロア材の長さ嵌合（かんごう、ジョイント）はズレていても嵌合できますが、2列目以降の嵌合は前列がズレていると施工はできません。

このため1列目の長さ嵌合では右図を参考にし長さ嵌合のズレを無くします。

● フロア2列目の施工

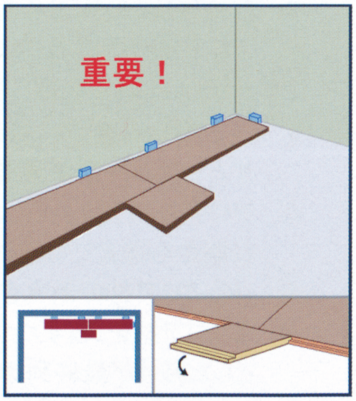
フロア1列目のズレが無い状態でフロア2列目を施工します。

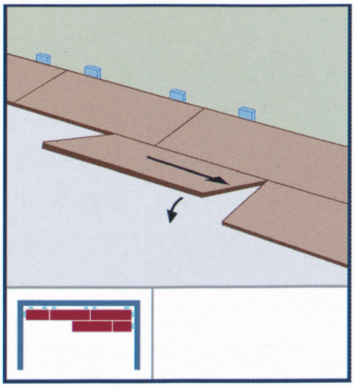
2列目の施工が困難な時は1列目のズレが原因と思われますので1列目のズレを補正してから2列目の施工をします。

● フロア3列目以降の施工は快適

フロア2列目までの施工が精度の高い施工となっていますので3列目以降のフロア施工は早くて正確な施工となります。

特にエクスプレスクリック施工はフロア材の嵌合でフロア長辺も短辺のハンマーで叩き入れる施工ではありませんので、フロア最終列まで精度が高く快適な施工ができます。 （次ページ⑤へつづく）





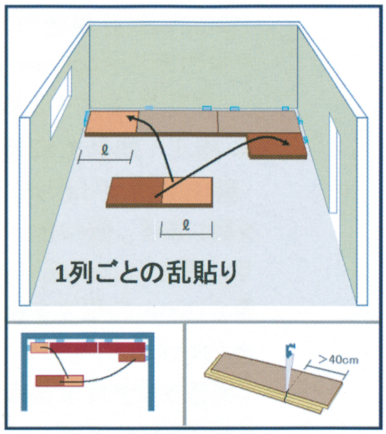
置敷施工

⑥「1列ごとの乱貼り」施工が基本

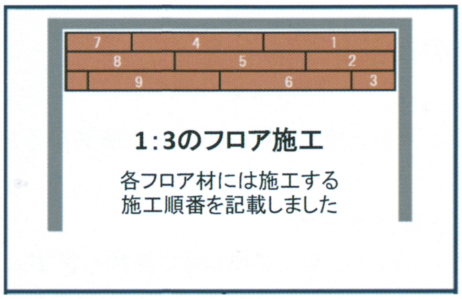
● 乱貼りの説明

フロア施工では、各列最後のフロア材は必要な長さを測りフロア材を切断して貼ります。切断した残りのフロア材は次列の貼り始めフロア材として使用します。このようなフロア材の貼り方が乱貼りです。

ラミネートフロア各社の施工説明は、乱貼りで1列ごとに施工する説明ですが、複数列を同時に施工することもできます。
ラミネートフロアの施工では、各列最後のフロア材の長さ測定とフロア材切断作業に多くの時間を要します。施工面積8m x 12m以下ではフロア材の切断する長さの測定と切断に要する作業時間は全施工時間の30%以上となります。



● 複数列同時施行の説明は下図をご覧ください



⑦フロア最終列の施工（貼り始め1列目のフロア材幅カットも同様）

● フロア最終の施工手順

a) フロア最終列の長さに合わせたフロア材を最終前列のフロア材の上に乗せ嵌合します。（詳細は右図を参考）

b) 長さ200mm前後に切断したフロア材の一端を壁に押し付けますと、他の一端が最終列の切り落とす位置となります。

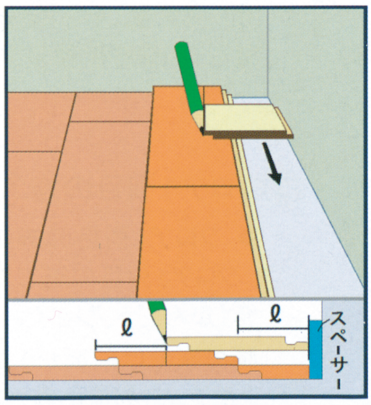
c) フロア最終列をa)の状態でb)を切断線の定規として、a)の上に端から端まで切断線を引きます。

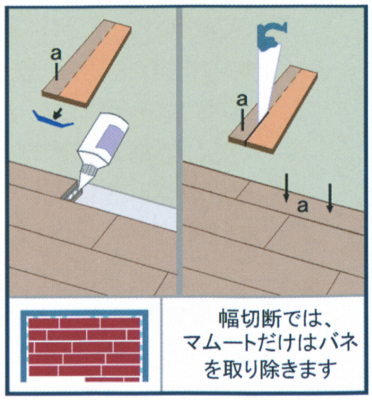
d) c)のフロア材の嵌合を解除します。

e) d)フロア材を1枚ずつ切断線に沿って切り落とします。切り落とした残りが最終列のフロア材です。

f) e)で切断したフロア材を端から順に嵌合します。この時、短辺の下端のサネに木工ボンドなどの接着剤を塗り嵌合力を補強します。接着剤が床下地材に付かないよう注意してください。

（スペーサーを取除き施工の完成です。）

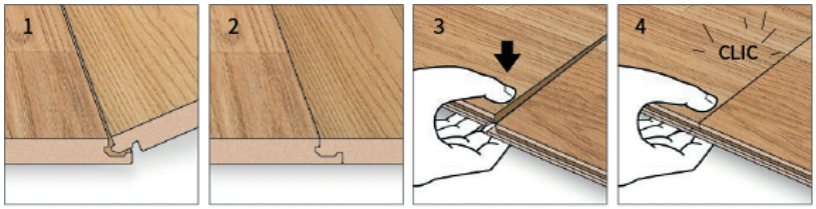




クリック ツー クリック　エクスプレス クリック

Clic2ClicとExpress Clicの説明

ラミネートフロアの長辺と短辺にはクリック（Clic Click）と呼ばれる特殊形状のサネ加工がされています。クリックは本実が進化したもので、本実より早くて正確なフロア施工ができます。クリックの形状は進化し続け、クリックの進化はラミネートフロアの施工方法を進化させています。ラミネートフロアの施工方法は複数あり、サネを接着剤留めす施工、フロア材の長辺と短辺をハンマーで叩き入れる施工、フロア材の短辺だけをハンマーで叩き入れる施工などの組み合わせで5種類から7種類の施工方法があります。
クロノテックス ラミネートフロアの施工は専用工具もハンマーも使用しない最新式クリック施工を採用しています。フロア材長辺のクリックはClic2Clic、短辺のクリックにはとExpressClicを採用することにより施工時間は従来品の約半分、そして静かなフロア施工が可能です。フロア材を傷つけること無くクリックの解除ができますので、施工時の仮施工やフロア材の再利用など多くのメリットがあります。



クロノテックスジャパン㈱

〒381-0024 長野県長野市南長池 280-8
TEL 026-267-0311
FAX 026-267-0312
Mail info@kronotex.jp

http://kronotex.jp

本紙は予告なしに改訂することがあります。最新の施工マニュアルは弊社サイトでご確認ください。
（本紙記載内容の無断転用を禁止いたします）